

# 人権文化をすすめる町民運動に募集された町内の児童・生徒の人権作文・詩を紹介します

これらの作品は、子どもの純粋な心と鋭い感性で問題をとらえ、子どもの切なる願いがあふれ、心をうたれるものがあります。また、幼稚園児のほのぼのと心温まるスケッチも記載しています。ぜひ、皆さんもご一読ください。

▶問い合わせ 学校教育グループ ☎079(435)0545

平成28回「全国中学生人権作文コンテスト」地区予選最優秀賞・兵庫県大会最優秀賞  
「障害のある人と暮らす」  
播磨中学校3年 松田望

私には弟がいる。彼は、私が六歳になるほんの少し前に生まれた。毎日大きくなる母のお腹の中から自分の弟が生まれてくるのかと思うと、子ども心に楽しみに待っていたことを思い出す。

しかし、実際に生まれてみると周りの大人がなかなか病院に連れて行ってくれなかった。

先天性四肢欠損症、それが私の弟の病名だ。原因は不明だが、生まれつき手足に障害があった。私はまだ何の事かもわからずに、今日は会えるよ、と連れて行かれた病院のガラス越しにしか対面できない弟に、「早く退院してきてね。抱っこするからね。」と手を振っていたことを覚えている。

しばらくして退院してきた彼の手足は、確かに私のものとは違った。でも、私は特に何も気にすることなく、単純に弟が出来たことが嬉しく、そして普通に可愛かった。

一般的に子どもが歩き出す時期に、彼は最初の補助するための金属製の装具をつけた。私はその不



▲お友だちと一緒に遊ぶと楽しいね！  
播磨西幼稚園 4歳児 くぎみや もな

「私のおばあちゃん」  
播磨小学校6年 東郷真由

私の、おばあちゃんは、今年の2月5日に長い闘病生活の末、亡くなった。私は、半年がたった今も信じられない。

少し前まではすごく元気だったのに。でも、それは私が知らなかっただけかもしれない。後で、お母さんに聞いたら、実は私が四年生の秋に、余命半年あるかないかと言われていたらしい。もちろん、おばあちゃんも知っていたらしい。それでも、おばあちゃんは、正月には、すごくこうかなおせち料理を作ってくれて、いつもと同じ笑顔で遊んでくれた。

私達姉弟や私の両親の事が大好き

思議な形を見ながら、「これで歩けるのかな。」と思った。だが、彼は歩きた。家の大人たちは大喜びした。その喜びには私などが想像もできないほどの深い喜びがあったのだらう。

その後、弟は入院を繰り返すことになる。一ヶ月、長い時は半年間以上の入院。私は母が弟に付き添ってずっと病院に居るため、祖父母に世話を受けながら、毎日を過ごすことが多くなった。義足が変わり、急に大きくなって帰ってきたりする。退院してきた彼を見るのも楽しかった。

私は、弟に障害があること、母が弟に付きつきりになることで、私は疎外感を受けたことは一度もない。これは今の年齢になって考えると、ものすごく周りの大人たちが頑張ってくれたからなのではないだろうか。両親も祖父母も、生まれながらに障害のある弟だけを特別視せず、私にも変わらない愛情を持って育ててくれたのだと、最近になってようやく気付いた。当たり前にしてしまっていた普通の毎日が、どれほどの愛情に満ちあふれていたのだろうか。本当に感謝している。

だが、世間の人は少し違う。外出する時、義足をつけずにそのままの状態の足で車いすに乗せてい

きでいつも心配してくれていた。やせてしまつて車イスになつても、いつも明るかったから絶対に治る病気だと思つていた。

おばあちゃんが亡くなった日、私達家族に書いてくれた手紙がでてきた。そこには、何度も「ありがと。」と書いてあった。私には、

「弟をかわいがり、お母さんを助けてまっすぐ生きるようにね。ずっと見守っているよ。」と書いてあった。途中からは、涙で読めなかつた。料理もさいほうも何でも得意だったおばあちゃん。お母さんと、大の仲良しだったおばあちゃん。私達姉弟をいつもかわいがってくれたおばあちゃん。そんなおばあちゃんが教えてくれた事は、いっばいあるよ。中でも、自分が病気になるってしんどくてたくさん不安もあった時にもいつも周りの人を思いやり、弱音をはずかずに病気に立ち向かう姿は、病院の先生や看護師さんに、口々に「あんな立派な人はみた事が無い。」と言われた。私は、その言葉でおばあちゃんが私に、命をかけてあげらめずに、けん命に生きる事の大切さを教えてくれた気がする。私は、これからの人生で色んな困難にぶつかった時、いつもおばあちゃんを思い出して逃げ出さずに立ち向かって行くことと思つた。

ると、不思議な光景に出会う。わざわざ振り返つて見る人、明らかに興味津々に覗き込もうとする人、見ない振りをする人、様々である。こそこそと話す姿に、自分たちと違うのだ、という目で見ていたのがわかる。

確かに最初は驚くたろう。あるべき足がないのだから。けれど、私は言いたい。彼も私たちと何にも変わらない人間なのだ。

弟はひざから下がほぼ無いような状態で水泳する。しかも何百メートルも泳ぐのだ。家の中では得意そうに逆立ちで歩き、ものすごい速さで足をハイハイで駆け抜ける。義足ながらに運動会の短距離走にも挑戦し、長距離走も休まずに参加する。そして、本やテレビを見て大笑いしたり、泣いたり、怒られるまでゲームをしたり、普通に私や従兄弟や友達とケンカをする。本当に私にとっては普通の弟であり、普通の小学生だ。

しかし、私もそうかもしれないと感じた。身体障害者である弟は当然のように普通に接することができる。しかし、聴力や言語の障害、精神的な障害、いろんな障害のある人たちに対しても、私は「普通」に接することができるだろうか。

私が弟や家族、周りの大人たち

おばあちゃんからの、手紙の最後は、「私達に会えて本当に幸せでした。ありがと。」だった。だから、私からも、「おばあちゃんの孫で本当に幸せでした。ありがと。」これからもよろしくね。」と返事を書いて仏壇の前に置いたよ。

「だいたいぶかなあ」  
播磨西小学校4年 大西実歩

おとしよりの人が重そうなのをつもつて  
かいだんを上つていたよ  
わだしはうしろにいたよ  
だいたいぶかなあ  
こけたりしないかなあ  
てつたつてあげようかなあ  
声をかけるのははすかしいなあ  
おとしよりの人はかいだんの上まで  
のほりきつたよ  
はーはーいつてたよ  
しんどかつたかなあ  
にもつをもつてあげればよかつたなあ

どつていえなかつたのかなあ  
こんどはちゃんといいたいなあ

「もったいない」  
播磨南中学校3年 山中遼介

だりだり見ているテレビ  
歯みがき中だしている水  
夏なのに寒いと感じる冷房  
本当にもったいない  
嫌いだから残す野菜  
おかしを食へすぎて残すごはん  
買い過ぎてくさる冷蔵庫の中身  
本当にもったいない  
地球温暖化・CO2対策  
一人一人が気を付けて  
もったいないと思えば地球にやさしい  
北極では氷がとけ  
北極つまやアザラシが苦しんでいる  
沈んでいく町がある  
何年後かの私達の姿だ



▲ともだちといっしょにうまにのったよ  
蓮池幼稚園 5歳児 みくにしょうた



▲みんなでプールにいったよ！  
播磨幼稚園 3歳児 まつばやしとわ

から得たことは、普通に接し、普通に対応する事とは、何もせずに見ている事などでは決して無く、自分自身が普通にいる、という事だ。  
接する時間が多ければ多いほど、存在が当たり前になる。そして助けることも自然に身についていく。私の家族がそうであったように、障害そのものを当たり前の存在として受け止める。そして障害のある人が、何らかの助けを必要としている時には勝手に体が動くように。特別なことではなく、彼らにとってはその状態が普通なのだ。不便さは周りで助けてあげればいい。何も難しいことではない。障害があつてもなくても、誰もが障害に対して普通に受け止めれば良いのだ、と私はそう思う。

### 加古郡中学校新人戦



▲この日のために努力してきました

播磨南中学校

播磨南中学校では、生徒たちが部活動に一生懸命取り組んでいます。すばらしいチームワークを築くために、日々反復練習をくり返し、休日には、練習試合で実践力を養うように努力しています。

去る、9月27日(日)には、陸上の県新人大会が、他の運動部は、加古郡の新人戦が10月3日(金)・4日(土)に実施されました。先輩たちから引き継いだ2年生にとって初めての公式戦でした。夏休みからがんばってきた練習の成果を発揮しようと精一杯のプレイが見られました。生徒たちのがんばる姿はいつも輝いてさわやかなものです。

今後の活動に応援  
よろしくお願ひしま



### 幼稚園に獅子舞が来たよ!



▲「獅子の口って大きいな!」

播磨西幼稚園 年少組

10月17日(金)、幼稚園に古宮獅子保存会の獅子が来ました。朝から子どもたちは、「獅子にかんでもらおう」「いやや、こわいでー!」「こわくないでー!」の話で持ち切り。でも獅子が来るとみんな拍手で迎え、獅子もお辞儀をしておあいさつ。笛や太鼓の音に合わせて舞う400年の伝統を誇る獅子舞を真剣に見ている子どもたちです。キツネの面をつけた大きい組さんが獅子に乗せてもらうとまん中組さんや小さい組さんは、「いいな!」「乗りたいな!」「乗った大きい組さんは、「気持ちよかったわ!」と言ってうれしそう。最後にみんなの頭を賢くなるようにと、優しくかんでくれました。獅子が帰るころには、「怖さは消えて」「また来てね!」とみんな笑顔で見送りました。



### 楽しかったね! 自然学校



▲海でいろいろと楽しみました

播磨西小学校 5年生

5年生は、9月1日(月)から6日(土)まで「国立淡路青少年交流の家」へ自然学校に行きました。2日目のカッター研修では、大海原まで導かれた後、自力で港を目指してこぎ進めました。大潮の日に当たって、こいでもこいでもどどんと沖に流されていって大変でした。全員が気持ちを一つにして必死にこいで港まで戻ってきました。3日目のB&G海洋センターでは、ヨットやカヌー、バナナボートなどのマリンスポーツを思いっきり楽しみました。特にバナナボートは、モーターボートに引つ張られながらスピードを上げて進んだり、急旋回して振り回されたりする度に歓声が上がっていました。



### シーサイドドームで秋を見つけたよ!



▲ドングリがたくさん落ちていたね

播磨幼稚園

播磨幼稚園は、運動会をシーサイドドームで行いました。10月9日(木)、運動会予行のため、シーサイドドームに出かけ、午前中、広いドームを思い切り走ったり、皆で体操やダンスをしたり、存分に楽しみました。その後、お弁当タイム。体を動かして頑張った後のお弁当は、とってもおいしい!穏やかな秋の気候の中、友達と一緒に楽しくお弁当を食べました。お弁当の後には、ドーム周辺を散策です。「海が見えるよ!」「この実は何だろう?」と秋の木の実や葉っぱを見つけて喜ぶ子どもたち。「あっちにいっぱいドングリがあったよ!」「本当?行ってみよう」と知らせ合っていてドングリ探しに夢中です。袋いっぱいにつまったドングリのおみやげを手に、心も体も充実した一日でした。



### 修学旅行



▲広島方面に行ってきました!

播磨南小学校 6年生

10月22日(水)・23日(木)、6年生は広島方面へ修学旅行に出かけました。バスや新幹線、広島路面電車、そして旅館、鷺羽山ハイランドとどれもワクワクドキドキの連続でした。学年目標でもあった「仲間との協力」を忘れず楽しい修学旅行となりました。

そして、広島平和公園での学習。この日までに、平和について学習を進めてきました。一人ひとりの想いを込めた千羽鶴を手に、原爆の子の像の前でのセレモニーも行いました。「これから先、ぼくたちが大人になっても平和を築いていく気持ちを忘れません。そして、12才の今この時を大切に一生懸命に生きていこうと思います。ぼくたち・わたしたちは、夢にときめき、明日にきらめくような未来をつくっていきます!」

### バンザイ!! 運動会



▲五輪をイメージしたフープで演技

キューピット保育園

「運動会晴れるかな」「良いお天気かな」と子どもたちの願いが空に届いたのか、吸い込まれるような真つ青な晴天の空の下、キューピット保育園の運動会が行われました。保育園最後の運動会を迎える5歳児の子どもたち。オリンピック開催にちなみ五輪をイメージした5色のフープ演技に挑戦しました。赤や青、白、黄などの色鮮やかなフープを持ち、ピーターパンの曲に合わせて元気にいきいきと演技する子どもたちは、とてもたくましくかっこよい姿でした。保護者の方も、子どもたちの立派に成長した姿に涙する人、「すごい、すごい」と拍手喝采をしてくださるお客さんも大勢おられ、子どもたちは大変大喜びでした。子どもたちが作った万国旗も空高く舞い上がり、親子が触れ合った素敵な活気あふれる運動会のひと時でした。

